

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 高山市立本郷小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒506-1313

岐阜県高山市上宝町在家1642番地

E-mail hongou@edu.city.takayama.gifu.jp

Website <http://www.city.takayama.gifu.jp/ga/hongou-e/>

幼児児童生徒数 男子 30名 女子 44名 合計 74名

幼児・児童・生徒の年齢 7歳 ~ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校ではすべての教育活動を通じて、「郷土教育」の充実を図っています。郷土・上宝は雄大な自然と歴史ある伝統的地域であり、誠実で温かな地域性、学校を大事にし子ども見守る雰囲気のある地域です。しかし、一方では過疎化が進み地域の産業や発展には不安が感じられる課題も持ち合わせています。

こうした地域にある学校として、「ふるさとを愛する 心豊かな たくましい子の育成」を学校理念としてします。この理念の上で、ESDを「人・もの・ことをつなぐりをゆたかに広げていく学習を展開すること」と捉えています。そして、このESDの実践を通して、自然体験や伝統文化、地域の歴史の継承活動を維持していけば、友達や地域の人と触れ合い助け合う仲で、人との「つながり」を大切にする子どもになっていくと考えます。子どもたちは校区のよさや問題点を把握する中で、ふるさとを誇りに思い、より発展させていこうと働きかけていくだろうと考えています。

そこでESDを通じた実践の目標を次のように設定しました。

- ・上宝の地域を知り、学び、大切にしようとする地域愛を育てていく。
- ・学校の仲間、地域の人と関わることで、人間関係構築力を育む。
- ・地元を愛する心を発展させ、市、県、国を愛する心につなげ、やがて地球規模で物事を考えることのできる人に育てる。

具体的には、自然体験、環境学習、歴史学習を柱に、①地域を知る活動、②本郷の山やそこに暮らす動物に係わる活動、③米作りに係わる学習、④自然災害や

防災に係わる学習、⑤郷土の偉人を学び自分の未来を考える学習を行いました。



1・2年生 春見つけ



3年生 春のいさご山探検



4年生 田んぼの稲刈り



5年生 蒲田川の環境調査



6年生 善九郎の墓参り



全校 はちの子会 劇

(2) 活動の詳細

①活動内容

①地域を知る活動

1・2年生は、主に生活科、国語の授業を使って、ESDに取り組んでいます。学校の周りにある花や虫、木々や川、水にふれ、豊かな自然に囲まれていることに気づかせ、そして、そこに暮らす人々と声をかわし地域の人々と触れ合う活動を通して、上宝の良さを肌で感じる体験をしました。

具来的には、「町たんけんをしよう」「町の人とあいさつしよう」「地域の不思議を発見しよう」「人々の暮らしをみてみよう」「やさしい町・上宝」「地域で遊ぼう」「地域のよいところをみつけて発表しよう」などの教材を開発しました。また国語の教科では、感じたこと見つけたことを豊かな言語活動を通して表現することを増やしました。

②本郷の山やそこに暮らす動物に係わる活動

3年生では、総合的な学習の時間にE S Dに取り組んでいます。地域の山「いさご山」に登り、いさご山の豊かな自然の中で、たっぷりと体験をしながら学びました。春夏秋冬と季節ごとに登り、年間を通して山の自然の特徴や移り変わりを感じ取ることができました。この登山には地元の森林組合の専門職の方がガイドをして下さり、様々な花や木々、虫や動物の名前や特徴をその場で詳しく教えて下さいました。春には、大きな鹿に出会うことができ子どもももびっくりしましたが、非常に貴重な体験をすることができ大喜びをしました。

そして、山のおみやげの木や花を持ち帰り、草木染をしたり、木のキーホルダーを作成したりするなど、自然のものを使って楽しむ活動も堪能しました。

③米作りに係わる活動

4年生は総合的な学習の時間にE S Dに取り組みました。本郷は米どころであり、地域の米作り農家には毎年全国のコンクールで金賞を受賞するくらいのスペシャリストもみえます。そんな地元の農家を米の先生として指導をお願いし、子ども達と地域の力で、もち米を作って収穫までやり遂げることができました。

学校の田は近くの方に借り入れをし、春の田おこし、田植え、水やり、観察、稲刈り、脱穀、精米、米販売、しめ縄作り、収穫祭などのたくさんの作業に取り組みました。

米作りを通して、お米の大切さを知り、作業の苦労や工夫を学び、米作りの楽しさを味わうことができました。そして、地域の方の苦労や知恵から、協働して働くことの大切さやふるさとへの愛を育むことができました。

④自然災害や防災に係わる活動

5年生は、総合的な時間の学習でE S Dに取り組みました。地元の山・焼岳を中心とした自然災害の現状を知り、その防災の姿や、防災活動に係わる方から話を聞きました。また地域の環境について学び、水、川、環境、砂防、山岳救助、西穂高岳独標登山、ナダレンジャー講話など、様々な活動を体験することで、総合的に防災に関する知識を身につけ、自然や命を守るために大切なことを学びました。

地域のN P O法人神通砂防の方や、栃尾の砂防センターの方々、環境衛生団体の方、地元の災害体験者の方などたくさんの人から、具体的な話を聞き、直接現場での体験活動を通して、これからの自身の防災意識を高めることができました。

⑤郷土の偉人を学び、自分の未来を考える学習

6年生は総合的な学習の時間でE S Dに取り組んでいます。地元の偉人、江戸時代に百姓一揆のリーダーとして自分の命を懸けて人のために生きた「本郷村善九郎」や、大正時代の青年教師として地元の民衆を教育し高い理想を掲げた「篠原無然」、これらの偉人を教材として、人としてどう生きるか、自分の生き方を見

つめ高い理想を持ち未来を創造するには・・・を考えました。

今年、「本郷村善九郎」について、歴史民族資料館、高山陣屋、飛騨一之宮水無神社、本郷の本覚寺などに行き、見学や講話を聴きながらその生き様を学びました。そして、「はちの子会」で、善九郎の生き様を劇にし、保護者や地域の方に広く見てもらうことができました。

各活動は、1年間を通じて取り組み、その学びの発表の場として、学校文集「はちの子」の発行と、学習発表会の「はちの子会」があります。文集では1年間の郷土学習で学んだことをまとめた作文を文集にし、保護者地域の全家庭に配布しました。学習発表会は、各学年が学んだことを劇やプレゼン、合唱などにして自分達で作って発表しました。

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 学校行事)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

- ① ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

生活科の年間指導計画と総合的な学習の年間指導計画の中に位置づけている。指導の内容については、長年固定化している教材もあるが、新しく開発している内容もある。基本的には郷土と関係した内容で継続して引き継がれてきたものなので大きくは変えず、指導計画に位置づけていくが、新しい考えを取り入れたり、発展させる内容を工夫して取り入れていくようにした。例えば、米作りの学習では、児童の人数が少なくなってきたので、手作業と機械作業の割合を変えて作業し、意図的に両面のよさを体験した。

- ② 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

総合的な学習主任が、年間の指導計画を提案し、各学年の担任と調整して実施した。対外的な交渉が多いため、渉外全般に対しては教頭が窓口となり対応にあっている。保護者の方や地域の方々の協力や参加がたいへん多くあり、長年の協力体制を維持することができている。
全校の組織的な取り組みになるように、互いの学んだ成果を全校の前で発表（はちの子会）するように位置づけ、どの学年も出口を意識した活動にしている。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

今年はユネスコスクールになって1年目であり、まだ学校評価の項目としては取り上げていない。しかし、郷土に係わった生活科、総合的な学習は本校の伝統の学習内容としてずっと継続して行っているため、郷土に関する学習の充実は評価項目であり、高い評価を得ている。
今後は、ユネスコスクールとしての活動をもっと意識していくようにすること、他校や他地域との交流活動を行うのが課題である。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

インターネットなどにより他校の活動報告を見たり読んだりすることにより、活動の多様化を知ることができた。他校の取り組み事例を拝見すると、同じ郷土を教材とした活動でも、内容や取り組み方に違いがあり、参考になった。自校からの発信はまだ取組んでいないので、今後取組んでいきたい。

- ④ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

まだ実施していない。へき地にある学校のため、他団体との交流や協働を行うとすると、インターネットなどを通じて実施していきたいと考えている。本校は、今年度大規模改修工事が行われており、引越しや手続きなどで、インターネットの状況が時々切断されることもあり、継続した活動がしにくい状態であった。来年度秋には、工事も終了するので、そのあたりから本格的に交流を進めていければよいと考えている。

- ⑤ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

まだ実施していない。へき地にある学校のため、他団体との交流や協働を行うとすると、インターネットなどを通じて実施していきたいと考えている。本校は、今年度大規模改修工事が行われており、引越しや手続きなどで、インターネットの状況が時々切断されることもあり、継続した活動がしにくい状態であった。来年度秋には、工事も終了するので、そのあたりから本格的に交流を進めていければよいと考えている。

- ⑥ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクールの活動については、今までの本校の行ってきた郷土学習を土台としているため、数多くの地域との交流や地域の人から学ぶ教材、たくさんの地域学習の場、そして、学習したことを発表する場に恵まれている。

本校はへき地校であるため多くの教員は、勤務年数が短く、地元の教員が少ない。そのため、多くの教職員はまず地域のことを知ることから始まり、地域の教材を子ども達と共に学ぶことを通して地域を知り、郷土を誇りに思う子を育てることに、少しずつであるが寄与していると感じる教職員に成長していくと感じている。

こうした活動を、ユネスコスクールとして発信したり、交流の輪を広げたりしていくことが今後の課題であり取組んでいきたい。現在のこの地域における学習の枠を、更に広い地域や日本や世界の学校、団体と交流することで、よりグローバルな児童を育てることを期待する。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- 平成30年度も大まかな活動の概要は、平成29年度とほぼ同様である。
- ・1・2年生は、地域の探検や発見、そして地域の人とのつながりの機会をもっともっと増やしていくこと。
 - ・3年生は、地域にある自然や動物のことを、体験活動を通して詳しく追求し、そうした活動の中からでてきた疑問やより調べてみたい内容について、深めていく予定。他の地域の学校とも交流したい。
 - ・4年生は「米作り」の学習を継続して行っていく予定であるが、平成30年秋に高山市で行われる「米の食味コンクール」に出品して、小学生部門で全国1位をめざしていきたいと考える。
 - ・5年生は、地域の自然環境、災害、防災について追及するとともに、被害にあった地域の学校などと交流が出来るとういと考えている。
 - ・6年生は、本郷村善九郎、そして篠原無然の2人の生涯について、もっと体験学習を通して学ぶこと、そして地域の語り部などにも話を聞いたりし、学習を深めていく。

ユネスコスクールとして、次年度は積極的に他校との交流活動を取り入れていきたい。